

書評

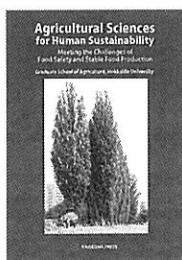
人類生存のための農学

-食の安全と持続的生産への挑戦-(英文)

Agricultural Sciences for Human Sustainability -Meeting the challenges of food safety and stable food production-

ISBN 978-86099-283-5

136ページ



本書は2012年6月末に海青社から出版された。北海道大学大学院農学研究院のほぼすべての研究分野の概要が一目でわかる構成になっている。全ページがカラーであり、美しいテキストという印象である。表紙

のポプラ並木と裏表紙の農学部が歴史を訴えかけてくる。

構成は前半が土壌学、植物栄養学から始まって、分子生物学などへいたる、いわばマクロからミクロへの配列になっており、化学・分子生物系を中心に構成されている。後半は、人類の生存基盤を学ぶために、農業経済学全分野が網羅され、農業環境経済、流通、協同組合、アジア農業経済学などの概論が示されている。続いて畜産学と農業機械、農業土木、気象学などの概論が述べられている。それに続き伝統的な農学である植物病理、園芸、花卉緑地、などがわかりやすく紹介されている。コラムには農場の最新の活動であるエネルギー作物（ススキ）、カバープラントなどや森林性微生物の魅力的な紹介がうれしい。

森林・林業関連は後半に配置され、全体の約1/5を占めている。そこでは、国立公園の利用解析から見た森林政策から、特徴ある地域の流域砂防、そして生物多様性保全をにらんだ人工林経営が解説されている。続いて変動環境を考慮した造林学の在り方が紹介され、微生物を利用した熱帯林などの再生への試み、木材解剖学や木構造の重要性が「川上から川下へ」配列されて述べられて

いる。なお、林産製造など化学的利用は廃棄物利用（バイオリファイナリー）を中心に、前半の化学系の項目の中に記述されている。80%以上に自習問題が用意され、自らの勉強の役にたつような工夫がされている。

本書の特徴は、北海道大学農学研究院が15年間に渡って継続してきた英語による留学生の大学院教育を基礎にしていることである。欧米での教育と異なり、「日本では論文を書くために実験と技術を習得したが、学問を納めた感じが無い」という留学生からの指摘があるという。多くの途上国からの学生は、大学に入ると欧米で作成された美しいテキストに依って学ぶ。本書の出版によって、そうした問題もかなり解消されるであろう。

一番の特徴は、最前部に、クラーク先生の言葉から始まる名言が記されており、内村鑑三の「誰にでも残すことの出来る遺産とは、崇高な人生である」が記されている。従来のテキストにない学問を納める上での人としての心構えが明記されている。持続的な生物生産を進める上で求められる姿勢が記され、巻末にはこの和文が掲載されている。

最後に、数多くの留学生の教育に森林科学（林学；林産学）の教員が情熱を持って当たっていることを紹介しておきたい。

定価2381円＋税とあるが、著者の紹介ということで著者割り：2000円（海青社へ直接）で、どなたでも入手できる。同社のFAX番号は077-577-2688である。購入されて、一読されることをお勧めしたい。グローバル化時代の教育・研究のあり方の一端を知ることができる。

石井 寛（北海道大学名誉教授）